

# めぐみ

2024年  
12月号

学校法人 聖公会北関東学園

認定こども園

初雁幼稚園

〒350-0057 川越市大手町 8-5

Tel 222-5385 Fax 228-5010

## エイサーに出会って

年少ちゅうりっぷ組担当 久保田沙樹



皆さんエイサーはご存じでしょうか。エイサーはお盆の時に先祖を敬い霊を弔う念仏踊りから始まったとされ、現在ではお盆の時だけでなくさまざまな機会に踊られています。私は10数年前から川越市のエイサーの団体に所属しております。3歳～83歳と年齢の幅の広い仲間たちと週に一回集まって練習を行っています。エイサーには伝統エイサーと創作エイサーがあり、私たちは伝統エイサーを基本とし主にうるま市のエイサーを取り入れています。

私がエイサーを始めようと思ったのは、以前勤めていた保育園の研修で沖縄の保育園の方が子どもとできるエイサーを教えてください、興味を持ったことがきっかけです。2回目の研修後に埼玉県のエイサーの団体を検索したものの場所が少し遠く、

「コレは続かないな」と思いこころは断念。「そういえば大正ロマン通りに沖縄のお店があるぞ」と思い出して行ってみることにしました。そこで川越でエイサーを行っている団体があると教えてくれ、すぐに見学を申し込みました。見学当日、「せっかくだから」とパーランクー(エイサーの小さい太鼓)を渡され、「とりあえずまねてやっごらん」とのこと。あたふたしながら踊っている方々の横に並び、なんとなく参加しました。あれよあれよというまに、そのまま入会が決まりました(笑)エイサーの踊りを教えてもらうのではなく、「見て覚える」スタイルだったので、ラジオ体操第一が精一杯な私にとってはなかなか大変でした。

仕事の都合上、参加できないことも多かったのですが、地域の運動会や高齢者施設、新宿エイサー祭、川越の百万灯祭り、富士見中で行われる「いもの子チャリティーバザー」で踊ったりと少しずつ経験を重ね、20周年公演ではウエスタでド緊張の中で踊り、習い始めて少しの三線は一曲以外はほぼエア三線(笑)「それでもなんとか頑張ったなあ」と達成感を感じていた矢先に、コロナで約2年間、活動が止まってしまいました。

コロナも落ち着き始め、活動が再開すると25周年公演の話が持ち上がりました。一年少し前から話し合いや準備を始めたのにもかかわらず、パンフレットやチケット作り(パソコンが使えないので「あーだこーだ」と口出していただけですが…)、ミニ獅子舞や子どもたちの笠を作っていたらあつという間に当日に!本番だという実感が湧かぬまま演舞がスタートしました。あちこち間違えながらも楽しんで踊ることができ、20周年ではほぼエア三線だった三線も思いの外、演奏することができ一安心しました。「やっと終わったー」と思っていたら、なんと来年、三線の方で発表会の計画があがり、エイサーでの参加もありとのこと!来年の発表に向けてまた頑張っていきたいと思います。

# 今月の保育目標と予定

## ☆保育目標☆

今月のテーマ  
「共に喜ぶ」

### 今月のねがい

- 心を合わせて喜びを表現する
- クリスマスの意味を知り、待ち、ともに祝う

### 学年別のねがい

- (1歳) みんなでクリスマスを迎える
- (2・満3歳) クリスマスをみんなで喜ぶ
- (年少組) クリスマスの意味を知り、祝う
- (年中組) みんなと心を合わせてクリスマスを祝う
- (年長組) 思いを一つにして、クリスマスを迎える

### ひとこと

クリスマス喜び祝う 12月。幼稚園ではアドベントカレンダーを毎日一つずつ開け、聖劇礼拝(幼児部)に向けて準備を進めながらクリスマスの日を待ちます。華やかなイルミネーションがまぶしいクリスマスシーズンですが、イエス様は寂しい町はずれの馬小屋でお生まれになりました。聖劇の中でエヴァンゲリストが語ります。「世界中の人々を助ける方でありながら、こんな粗末なところにお生まれになったのです」と。喜びを分かち合い、平和を祈りつつ、救い主イエス様の誕生日を、心を合わせてお祝いしましょう。

### 今月の聖歌

「かみさまのおやくそく」



## ★予定★

日	曜	行事などの予定
1	日	
2	月	
3	火	おはなしの会
4	水	
5	木	アルミ缶回収
6	金	聖劇礼拝練習(教会) ↓
7	土	就労家庭保育実施日
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	12月生まれ誕生会
12	木	
13	金	聖劇礼拝練習(教会)
14	土	就労家庭保育実施日 川越市民クリスマス
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	聖劇礼拝リハーサル(年中少参観)
19	木	聖劇礼拝(年長参観) 短縮保育
20	金	終業式 短縮保育
21	土	就労家庭保育実施日 教会学校クリスマス
22	日	
23	月	幼児部冬休み
24	火	クリスマスイブ
25	水	クリスマス
26	木	
27	金	
28	土	就労家庭保育実施日
29	日	休園日(1月3日まで)
1月		
1	水	元日
4	土	就労家庭保育実施日
6	月	
8	水	始業式 短縮保育
9	木	アルミ缶回収
10	金	全体礼拝 ↓

# チャプレンのページ

## クリスマスに寄せて

宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである

(ルカによる福音書 第2章7節 聖書協会共同訳)



12月直前となり、初雁幼稚園では子どもたちが聖劇の練習に励んでいます。イエス・キリストの誕生を、全身で感じつつ共に祝ってもらいたいと願っています。

子どもたちの劇で出てきますようにイエス・キリストは、ベツレヘムの宿屋が満員で泊まる所がなかったため、産着にくるまれて飼い葉桶に寝かされました。今も昔も、子どもの誕生には清潔な環境が不可欠です。イエス・キリストは、人間が産まれるのに最も適さない場所に寝かされ、命の危険にさらされる中で誕生しました。これは、神様がすべての人を愛されているしるしであり、その愛から外れる人は一人もいないのを知らせるためでした。

もしイエス・キリストが王宮で生まれ、何不自由ない暮らしをしたのであれば、神様の愛がすべての人に伝わることはなかったでしょう。飼い葉桶の誕生は、神様の愛がすべての人に注がれるしるしであったのです。

イエス・キリストの誕生を真っ先に知らされたのは、羊飼いたちでした。羊飼いは当時のユダヤ社会で最も身分の低い者とされ、人々から差別されていました。家もなければ家族もない、水と草のあるところを求めて旅を続ける日々でした。生きていて楽しいことなど訪れることはないと思っていた人たちでした。事実、彼らは楽しいことには全く無縁だったのです。

天使たちは羊飼いに、誰よりも先にイエス・キリストの誕生を知らせました。さらに天使たちはその誕生が、神様の栄光を現わすことであり、またこの地上に平和が満ちるためであったと賛美しました。

この天使たちの賛美の歌は、日曜日の教会礼拝で「大栄光の歌」として毎週用いることになっていますが、世界で最初に用いたのは、羊飼いたちの前に現れた大勢の天使たちだったのです。

本年もまた、世界各地での戦乱の中でクリスマスを迎えることとなりました。聖地ベツレヘムには難民キャンプが設けられ、命の危険にさらされている人たちが大勢結集する中でのクリスマスになっています。

戦乱が一日も早く終結し、世界に平和が訪れるのを願います。平和は国の指導者や権力者がもたらせてくれるわけではありません。私たち一人一人が平和を求め、自らできる業を行うことによって、平和へと歩みだしていくのです。クリスマスにも関わらず、命の危険にさらされ、平和とはかけ離れた日々を過ごさざるを得ない人たちが、世界に、特にイエス・キリストが誕生された近くに大勢いるのを、あらためて覚えたいと思います。

降誕の主がすべての人の心に宿り、この世界が明るく暖かくなりますよう…。

(チャプレン 鈴木 伸明)

# クラスの窓



## つくし組

### やり取り

登園後から1人、2人と増えていくたびに会話があちこちで始まり、話し声がとても賑やかです♪

玩具の貸し借りでは「〇〇ちゃん貸して」と言うと、今までなら首を振って「今使っているよ」とジェスチャーで伝えたり、時には玩具をもって場所移動して嫌なことをアピールしたりとさまざまな動きや仕草で伝えていたことが多かった6人。ここ最近では「今使っているよ」や「だめよー、あーとでね」や、「いいよ。どーぞ、〇〇ちゃん」と言葉を使ってできるようになってきました。また「貸して」の言葉もただ言うのではなく、ちょっと感情を込めて「貸してくれるといいな〜」とバージョンアップして友だちに伝える子も中にはいます。でもまだ2歳前後なので何を話すのもかわいい時期！ノートに書いてあったことを聞くと、「そうそう！パパとママと〇〇ちゃんとガオー(ライオン)見たよ」や、サッカーをしている子を見て「ボールコロコロ」と動作を単語に変えて伝えてくれることもあります。園生活を始めて8ヶ月が過ぎて、いろいろな単語を覚えて会話成り立つようになった子どもたち。毎日の友だちや保育者との会話のやり取りを大切に、これからもっといろいろな言葉を吸収していこうとしているつくし組です。

## もも組

### 午睡でエネルギー回復！

午前中の活動を終え、給食をたくさん食べるとお気に入りのぬいぐるみや絵本を一つ選びつくし組へと移動します。先に寝ているつくし組を起こさないように忍者になって階段を上っていきます。たまに元気なもも組の姿のまま移動するときもありますが、そこはご愛嬌ということで◎。そしてそれぞれのペースで入眠…。15時になると部屋が明るくなり、午後の活動の始まりです。起きてすぐに、その場にいる保育者に「今日、ももさん？」と聞いてくる子。睡眠からなかなか醒められない子とさまざまな寝起きタイムを終えて、もも組へと移動します。それぞれの保育者が持っているシアターを把握している子は、「今日のお歌はなに」「このお歌がいい」とリクエストされることもあります。おむつ交換・トイレに行ったりしていると遊びが始まり、あっという間にいい時間。「そろそろおやつを食べ始めないと！」と片付けをはじめ、着席！待ちに待った歌(シアター)の始まり。もっと歌いたかったという日も少なくありませんが、お迎えの時間もあるのでおいしいおやつをいただいて、全員揃っての活動が終わります。

## ちゅうりっぷ組

### みんなで集まって何かやるのは楽しいね！

11月、気持ちの良い秋の日は、散歩にみんなで出かけました。1学期のちゅうりっぷ組だけの散歩は、園の赤門を出て、黒門に帰ってくるだけでも大変だったのに、しっかり手をつないで歩く姿に成長を感じました。「ぼくが〇〇ちゃんを守るからね！」と車道側を線から出ないように歩いていて、とても頼もしく感じました。

好きな友だちの存在も大きくなっているみんな。「一緒に遊ぼう」と声をかけあったり、「〇〇ちゃんの隣りがいい」と誘い合っています。仲良くなるが故、片付けの時間はもっと遊んでいたかったり、集まりの時間は「〇〇ちゃんの隣りじゃないと嫌だ」と泣いてしまうこともあります。クラスの集まりも、楽しみにしてもらおうとバスの席のように椅子を並べたり、「みんなが揃ってからの楽しみ」を準備すると、段々と気持ち良く集まってくるようになりました。「バスが発射しちゃうよ」「あー、間に合ったー！」と頑張っているちゅうりっぷ組のみんな。クリスマスのお話も始まり、羊さんの歌や踊りも練習し始めました。「みんなで集まって何かやるのは楽しいね！」と感じながら過ごして行ってほしいと思っています。

## たんぽぽ組

「みんなが楽しんでくれる出し物」を目指して

11月の誕生会の出し物を担当したたんぽぽ組！さっそく話し合いを始めると、それぞれの好きなアニメの名前が出てきました。それらを組み合わせ、ガールガールになってしまったよしおとよしこを助けてあげるお話になりました。

内容が決まると、少しずつ必要なものを作りました。そのできばえに子どもたちも楽しみが膨らんでいったようです。

いざ練習をしてみると、恥ずかしさがあったり、ドキドキしたり、いろいろな姿がありましたが、最初に話し合っただけで決めた「みんなが楽しんでくれる出し物」を目指して一人一人が頑張りました！迎えた当日も子どもたちの姿はそれぞれでしたが、20人全員揃ってこの日を迎えられたことが何よりも嬉しかったです。

運動会を乗り越え、出し物を乗り越え、どんどん自信をつけていく子どもたち。ステージ上以外でもたくさん成長が見られています。今は友だちとの関係が思うようにいかないことも増えてきましたが、それぞれに向き合っただけで過ごしているところです。次は聖劇礼拝の「導きの星」役！1ヶ月後の姿を想像するだけでわくわくしますね☆

## すみれ組

ああ、たのしい。



「うんとこしょ！どっこいしょ。」この言葉がでてくる絵本を元に、2つのチームに分かれて劇遊びを楽しみました。事前にチーム分けはしましたが、役は自分になりたいもの考える！一人一役です。宝塚歌劇団、マツケンサンバが好きな先生と演じる子どもたちは、誰が出るかの順番決めに「クジか、ジャンケンか」の話し合いで、時間がかかりました。アドリブ大好き、今が楽しければオーケーな先生の子供たちは、「順番はすぐ決まるがこだわりが強く、「ポケモンはしゃべらない！」と…。みんなで言葉を考えるのに時間がかかりました。

しかし、決まってからは早い早い。楽しい劇遊びが始まり、あっという間に演技きってしまいました。「ああ、楽しかった」の一言がとても嬉しく、「お互いの劇を見たい！」というところまで発展しました。先に演じたのは宝塚チーム！舞台を意識し、お客さんの方を向いて声の大きさは完璧、最後に出てきた子はアドリブ満載、「オーマイガー！」とまさかの英語。見ている側も演じている側も盛り上がりました。次は小道具から入る、今が楽しいチーム。マットを赤かぶに見立てて引っ張ります。恥ずかしくて声が出ない子のセリフまでみんなが言ってしまうのですが、そんなのはノープロブレム。最後にかぶをサラダにして食べてしまいました。

それぞれの良さが生かされた劇あそび、その時間を元に次の活動に進んで行きたいと思いません。

# わが家のまど



(333) はてしない物語

補助職員 中村 紅子



「ラーメン屋さんで一す」「診察室1番にお入り下さい」「西武バス本川越行きです」子どもの数だけ物語が存在する園庭。息子が通っていた15年前も、ひょっとすると創立から変わらない初雁の風景です。物語が次々と生まれ回収されずに放置される光景に「けれどもこれは別の話 いつかまた別の時に話すとしよう」という、はてしない物語の一節がどこ

からか聞こえてきそうです。息子が小学生のころ「子どもの科学」という雑誌を購読していました。旬な科学ネタを易しく解説するこの雑誌は、科学好きには堪らない話題が満載。読者の写真投稿コーナーには初投稿の「変な立体」が入賞して以来、度々投稿していました。焼き鳥屋のケロくん、屋根の上のペットボトル、変な立体2。子どもの感性で切り取られたこれらの写真も、彼の物語の一場面のようなものでした。



6年生の時に撮った「斜めの世界」は公園の遊具の斜面を地面に見立てたお気に入りの一枚。年間大賞にも選ばれた特別な作品ですが、後にこの遊具は老朽化で撤去されてしまいました。物語への扉を失って感傷に浸る大人の横で、本人は「結構古かったもんね！」とどこ吹く風。君にはいくらでも扉があるんだろうね、と羨ましく思ったのでした。

さてわが家にはもう子どもはいませんが、園は相変わらずファンタジーに溢れていて、子どもたちの物語は果てしなく続いています。けれどもこれは別の話、いつかまた別の時に話すとしましょう。